

平成 23 年度学校評価 自己評価書

2012 (平成 24 年) 3 月
学校法人高橋学園
千葉学芸高等学校

1. 学校教育目標

〈1〉 建学の精神と教育目標

建学の精神 「 創造 」	
教育目標	1. 心の創造 強い精神力と思いやりの心 2. 智の創造 知性と判断力 3. 美の創造 感性と技芸

建学の精神

建学の精神は私立学校にとってその教育の最も根幹となる目標を示すものであり、すべての教育活動を建学の精神に位置づけて行われる。千葉学芸高等学校では、建学の精神「創造」のもと、美しい人類文化の創造にあたる実力を備えた人材の育成を図る教育活動を展開する。

教育目標

教育目標は、建学の精神「創造」の具現化のため、心・智・美の観点から獲得を期待する知識技能能力の内容を示す。

心の創造においては、物事への集中や忍耐のできる強い意志を備えつつ、優しい思いやりも併せ持つ人間性の涵養を図る。

智の創造において、知性を磨き、知識を蓄積するのは正しい判断のできる理性を備えるためである。

美の創造においては、美しいものを美しいと感じ、それを言葉や身体で美しく表現できる能力や技能の獲得を図る。

〈2〉 教職員および生徒の行動目標

教育目標の実現のため教職員は、以下の信条のもとに教育活動にあたる。

《職員の信条》 (1) 建学の精神を生かし、日本人の特性と校風を高揚せん (2) 自己の誇りと責任を自覚し、全機能の発揮に当たらん (3) 親和・協力の心を基とし、内容の充実を求めん (4) 良き社会人たる素質を磨き、生徒の進路に万全を期せん

生徒は、以下の誓いのもとに学校生活の充実を期す。

《誓いの言葉》

- (1) よい伝統と、よい校風をつくります
- (2) はつらつとした若さで学力・技能を磨きます
- (3) 愛敬の心を生活に表します

また、以下の学年目標に沿って自己の研鑽・向上を図る。

1 学年の目標	《自学》 私たち1年生は、次の目標をしっかりと実行して進みます。 (1) 高校生としての礼法・言語・動作を立派に築きます (2) 友情・協同の精神を発揮します (3) 自信の持てるまで努力いたします
2 学年の目標	《充実》 私たち2年生は、学校の中心となり、充実した学年を築きます。 (1) 自分の将来の方針をたて、目標達成のために根強い努力をします (2) 愛校・友情の精神を一日の生活に表します (3) 自信の持てる力と人格を築きます
3 学年の目標	《独立》 私たち3年生は、自分の将来の方針をたて、最高学年として人格を磨き、よい社会人となります。 (1) 全校のよき指導者となります (2) 社会にたつ一切の準備をいたします (3) 自己の誇りと責任を自覚し、協力貢献を実践します

〈3〉年度目標

以上を踏まえて、平成23年度の目標を以下のように設定した。

平成23年度学校目標 『学ぶ目的の把握』

One Up (ワンナップ) は「一歩前進、1点リードしていくこと」。

千葉学芸高校として12年目。

学業にしても、スポーツ・文化活動にしても、人付き合いにしても、趣味の活動にしても、日常の中に学びがある。いまこれを学ぶことは、何のためなのか、何に役立つものなのか、いま勉強したり、練習している「これ」ができるようになるということは、自分にとってどのような意味を持つのか。折に触れて、立ち止まり、考え、確認しよう。特に、意欲が減退したときは、目的を見失っている可能性が高い。

そもそも何らかの目的があって始めたことである。目的を把握し、意欲を新たにしよう。

上記目標に主眼をおきながら、人格形成・コミュニケーションの充実、学力向上・技能獲得向上・

資格取得、進路開拓などを目指して教育学習活動にあたる。特に特性の伸長、人間性の育成、技能教育を重視し、色彩教育、情報教育、福祉教育、環境教育、国際教育などに関連する授業や学校行事、クラブ活動などの諸活動の展開・充実を期す。

2. 学校の概要

学校法人高橋学園 千葉学芸高等学校

〒283-0005 千葉県東金市田間 1999 番地

TEL 0475-52-1161

FAX 0475-52-1163

インターネット <http://www.cgh.ed.jp/>

電子メール info@cgh.ed.jp

平成23年度	学級数・生徒数	1学年	4学級	180名
		2学年	4学級	124名
		3学年	4学級	147名
		全校	12学級	451名

学校の概要については、インターネットホームページで公表中。また、創立120周年記念誌等の冊子にて紹介している。

3. 各部門の活動内容・活動状況（学校要覧）

学校の特色、および以下の事項等については、平成24年度学校要覧（冊子全72頁、関係者向け5月刊行）に記載。

- ・学校施設・設備、校舎面積
- ・学校行事の内容
- ・生徒会活動の内容
- ・クラブ活動の内容
- ・教職員の担当学年、担当教科、校務分掌、授業の持ち時間数、所持免許状の種類
- ・校内研修の内容
- ・学習指導（授業時数、時間割、総合的な学習の時間の内容）
- ・学籍・出欠席統計
- ・生徒指導上の諸問題及びそれに対する学校の対処や指導の状況
- ・進路の状況
- ・安全管理・保健管理（保健安全、防犯対策、防災対策）
- ・各部門の予算執行状況
- ・父母の会活動状況、地域との連携等の状況

4. 自己評価（平成23年度）

A. 全般の評価

（1）評価

全般評価：良好

（2）課題と改善策

全般に関わる特に重要な課題として、生徒募集および学力の向上の2つを取り上げる。

次に、平成23年度のトピックとして、東日本大震災での被害に関して復旧の取り組みを述べる。

生徒募集状況の課題

平成23年度新入学生徒数は大幅な減少をした平成22年から反転し、増加することができた。中学校卒業生数は減少であったが近隣公立高校での学級減の影響が少なくない。平成24年度入学予定者は、公立高校の学級増があり、一転して減少となった。本校の在学生の教育向上・進路状況は良好であり、困難な生徒募集状況は近隣公立学校定員過剰・公私学費格差等の外部要因によるものが主であると考えられる。公立高校の募集人員増減により直接左右される状況は脱していく必要があり、受験生から選ばれるための魅力を一層高めていく必要がある。生徒募集の拡大のためには、内容の充実、広報・PRのくふう等の自己対処方策の充実発展により改善を図っており、授業料減免制度や奨学金制度の周知により私学を敬遠する意識の解消に努めている。その結果、新入生では約半数が授業料減免制度を利用するなど、周知効果は高まっており、公私学費格差を乗り越える状況が生まれつつある。

学力の向上

21年度の年間目標に言語表現力の向上を掲げて以来、引き続き国語科および学年会による漢字学習指導、作文指導、全校漢字学力テストの複数実施、校内漢字検定の実施を行っている。常用漢字の書き取りについて、個々の生徒に於いて繰り返しの学習成果は着実に現れ、作文を書かせてもひらがなばかりでほとんど漢字が書けなかった生徒が、適切な漢字かな交じりで文章を書けるようになるなどの効果が生まれている。基礎学力を身に付けたことに自信を深めた生徒が他の学習に意欲的に取り組む姿もみられ、教師による学習の働きかけと継続的な指導が奏功している。学力上位者については、フレッシュタイムワークと称する朝夕の特別学習講座に加え、eラーニングビデオ教材を活用して特別進学に対応する学習に取り組み学力向上を図った。城西国際大学・東京理科大学をはじめ多数の指定校推薦枠を得ているほか、大学入試センター試験を経て国立大学（千葉大学）に挑戦するレベルの生徒も現れており、進学コース設置の効果が現れつつある。

東日本大震災の被災状況と復旧

2011年3月11日の東日本大震災では、南北方向の震度5強～6程度の揺れにより、校舎の一部（エキスパンションと呼ばれる接続部の損壊、外壁タイルの浮き、天井の歪み、壁の亀裂）が破損したほか、総合グラウンドのエントランス部分のアスファルトで不陸歪みが生じるなどの被害があった。国の激甚災害指定により、国補助1/2、県補助1/4で復旧工事が行えることとなり、総額8000万

円規模の震災復旧工事を実施し、3月末に完工した。

幸い、在校生の生徒・教職員に被災はなかったが、新入生には被災家庭があり、状況に応じて奨学金支給などの対応を実施している。

B. 部門ごとの評価

（学校要覧に記載）

5. 学校関係者評価

学校運営会議開催（6月）。

保護者（5月）および生徒（2月～3月）にアンケートを実施した。

以 上